

児童・生徒にとっての1人1台端末の効果と影響（1/2）

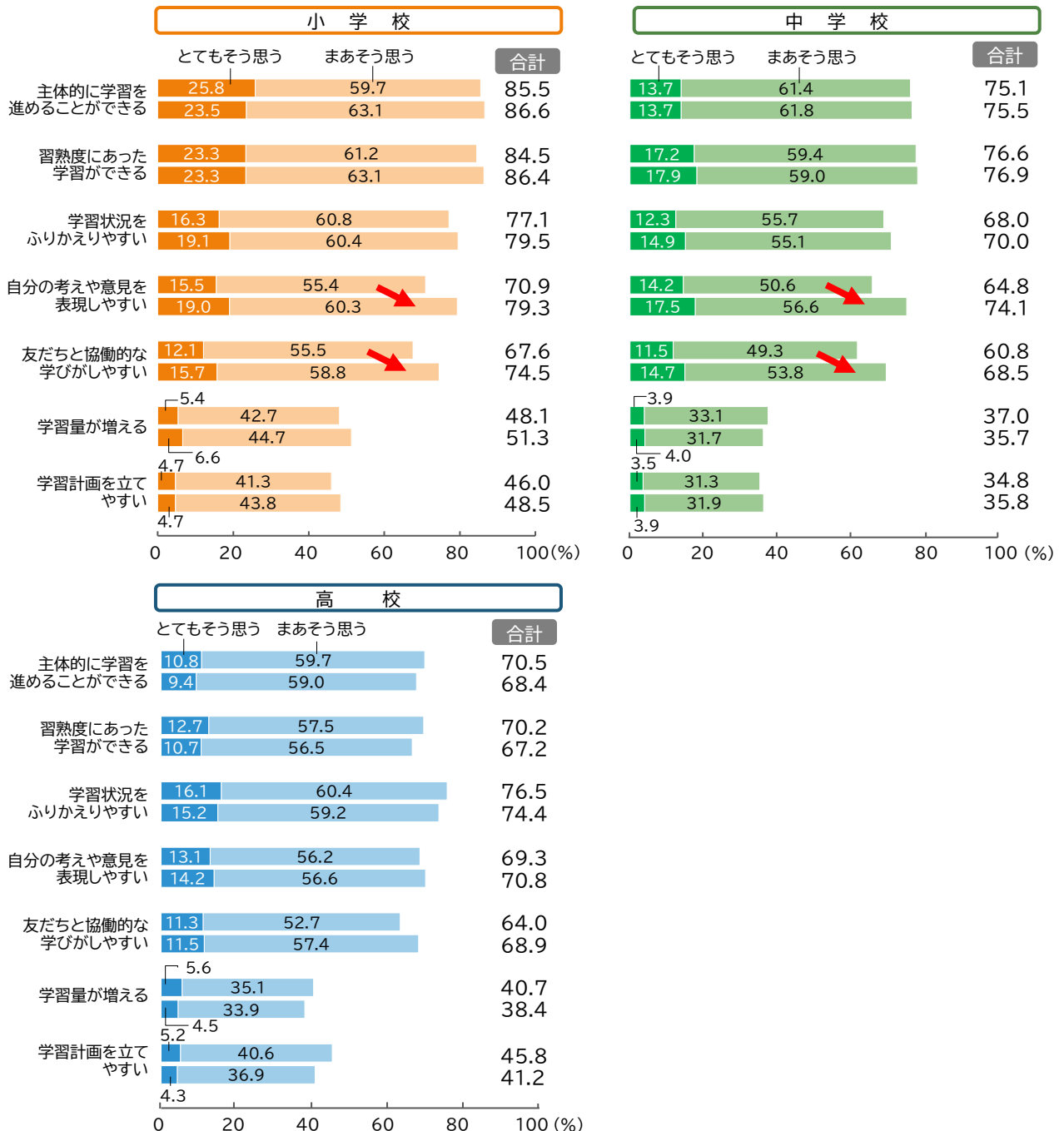
小・中学校で「自分の考えや意見を表現しやすい」という効果実感が高まっている

1人1台端末を活用した学習について、小学校教員の約8.5割、中・高校教員の7割弱～7.5割が「主体的に学習を進めることができる」「習熟度にあった学習ができる」と感じている。一方で、「学習量が増える」「学習計画を立てやすい」は、小・中・高校とも約3.5～5割と低い。また、高校は、7項目中、「学習状況をふりかえりやすい」の割合がもっとも高く（約7.5割）、小・中学校と傾向が異なる。2021年と比較すると、小・中学校では「自分の考えや意見を表現しやすい」「友だちと協動的な学びがしやすい」の比率が増加している（約7～9ポイント）。

Q1人1台端末を使った学習は、児童・生徒にとってどのような効果や影響があると思いますか。

図3-1 児童・生徒にとっての1人1台端末の効果(経年比較)

上段:2021年  
下段:2022年



※高校は「ICT機器を使った学習」について尋ねている。  
 ※小・中学校は、1人1台端末の「導入が完了している（あてはまる）」と回答した教員のみ。の回答。  
 ※11項目のうち7項目を示している。

児童・生徒にとっての1人1台端末の効果と影響（2/2）

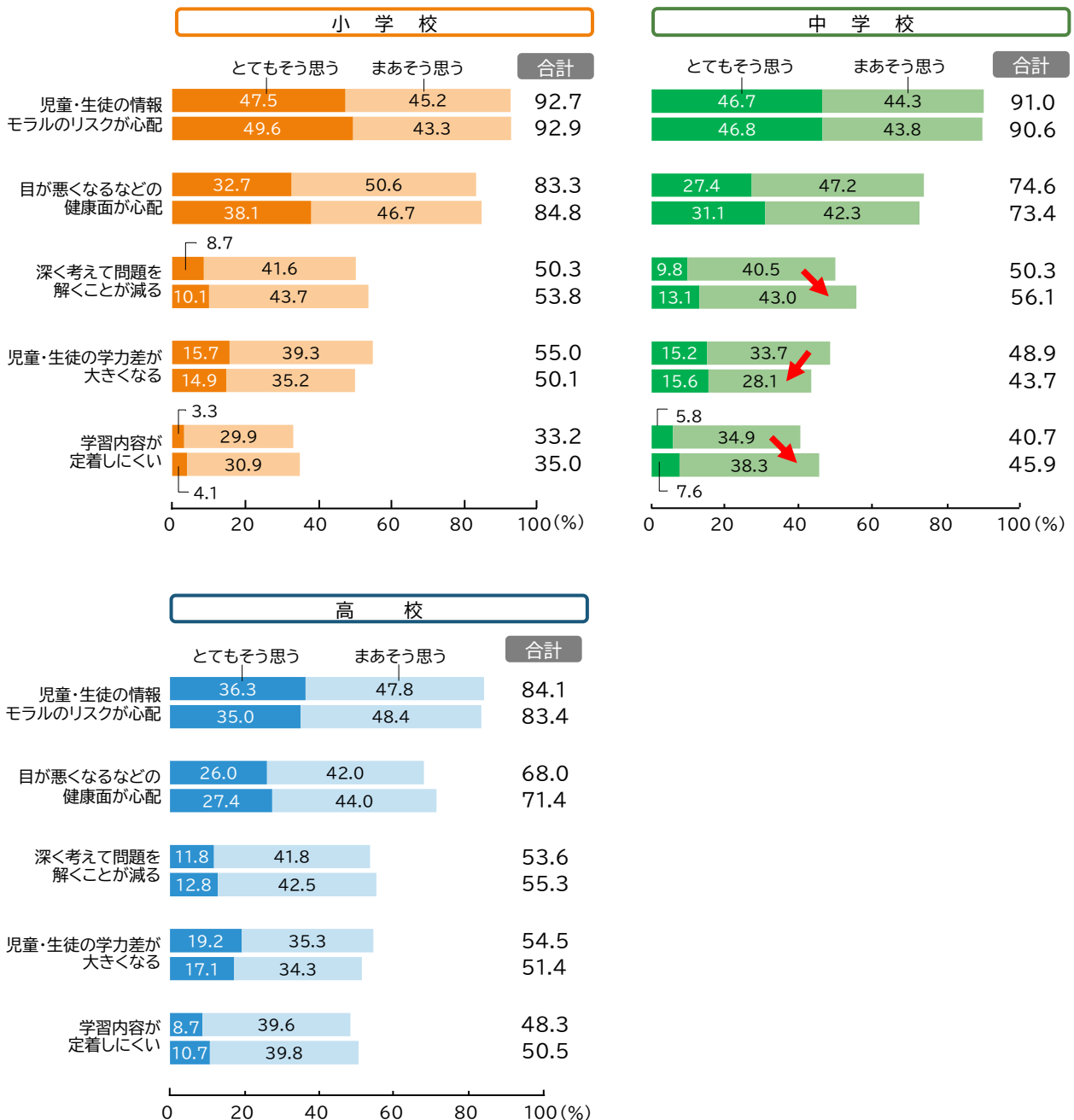
「深く考えて問題を解くことが減る」との懸念が中学校で増加

1人1台端末を活用した学習について、教員はさまざまな懸念も抱いている。特に「情報モラルのリスクが心配」「健康面が心配」については、小・中・高校とも「とてもそう思う」の比率が2～4割台、「まあそう思う」をあわせると7割～9割強と高い。また、中学校では「深く考えて問題を解くことが減る」「学習内容が定着しにくい」との懸念が5ポイント以上増加し、小学校・高校でも増加傾向にある。端末を活用した学習の効果実感は高いが（p.14）、マイナス面の影響も考慮する必要があるようだ。

Q 1人1台端末を使った学習は、児童・生徒にとってどのような効果や影響があると思いますか。

図3-2 児童・生徒にとっての1人1台端末の影響（経年比較）

上段：2021年  
下段：2022年



※高校は「ICT機器を使った学習」について尋ねている。  
 ※小・中学校は、1人1台端末の「導入が完了している（あてはまる）」と回答した教員のみ。の回答。

資質・能力向上に対する1人1台端末の有効性

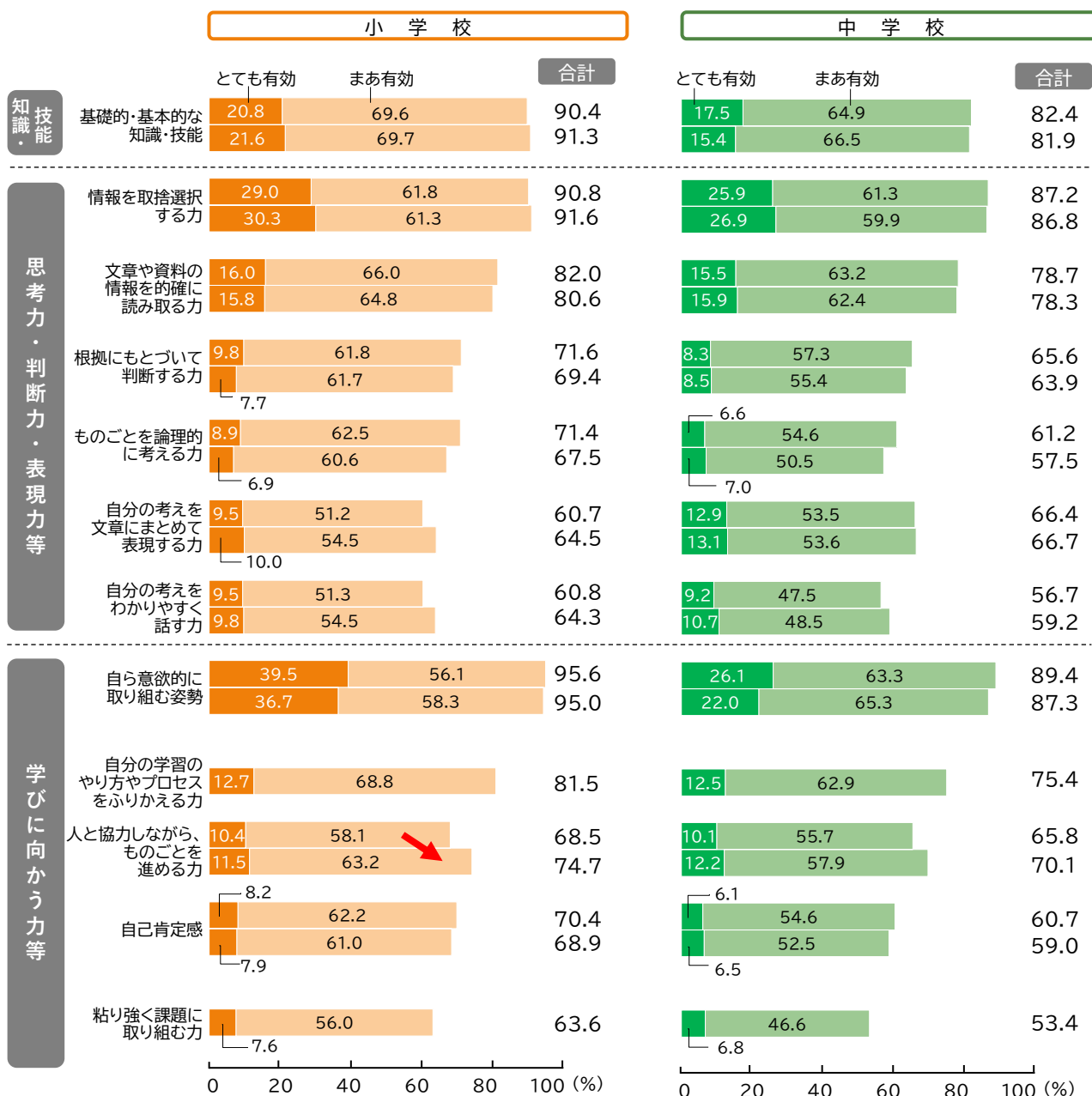
「自ら意欲的に取り組む姿勢」「情報を取捨選択する力」  
を高めるのに「とても有効」が2～3割台

1人1台端末を活用した教育の有効性を尋ねたところ、小・中学校教員の約8～9.5割が、「自ら意欲的に取り組む姿勢」「情報を取捨選択する力」「基礎的・基本的な知識・技能」を高めるうえで有効であると回答しており、「とても有効」の比率も約1.5～3.5割と高い。一方、「粘り強く課題に取り組む力」など、比率が比較的低い項目もみられる。2021年と比較すると、小学校では「人と協力しながら、ものごとを進める力」の比率が高まっている。

Q 1人1台端末を活用した教育は、次のような資質・能力を高めるうえでどれくらい有効だと思いますか。

図3-3 児童・生徒の資質・能力向上に対する1人1台端末の有効性(経年比較)

上段:2021年  
下段:2022年



※2021年は「自分の学習のやり方やプロセスをふりかえる力」「粘り強く課題に取り組む力」の2項目を尋ねていない。

学力層ごとの効果の違い

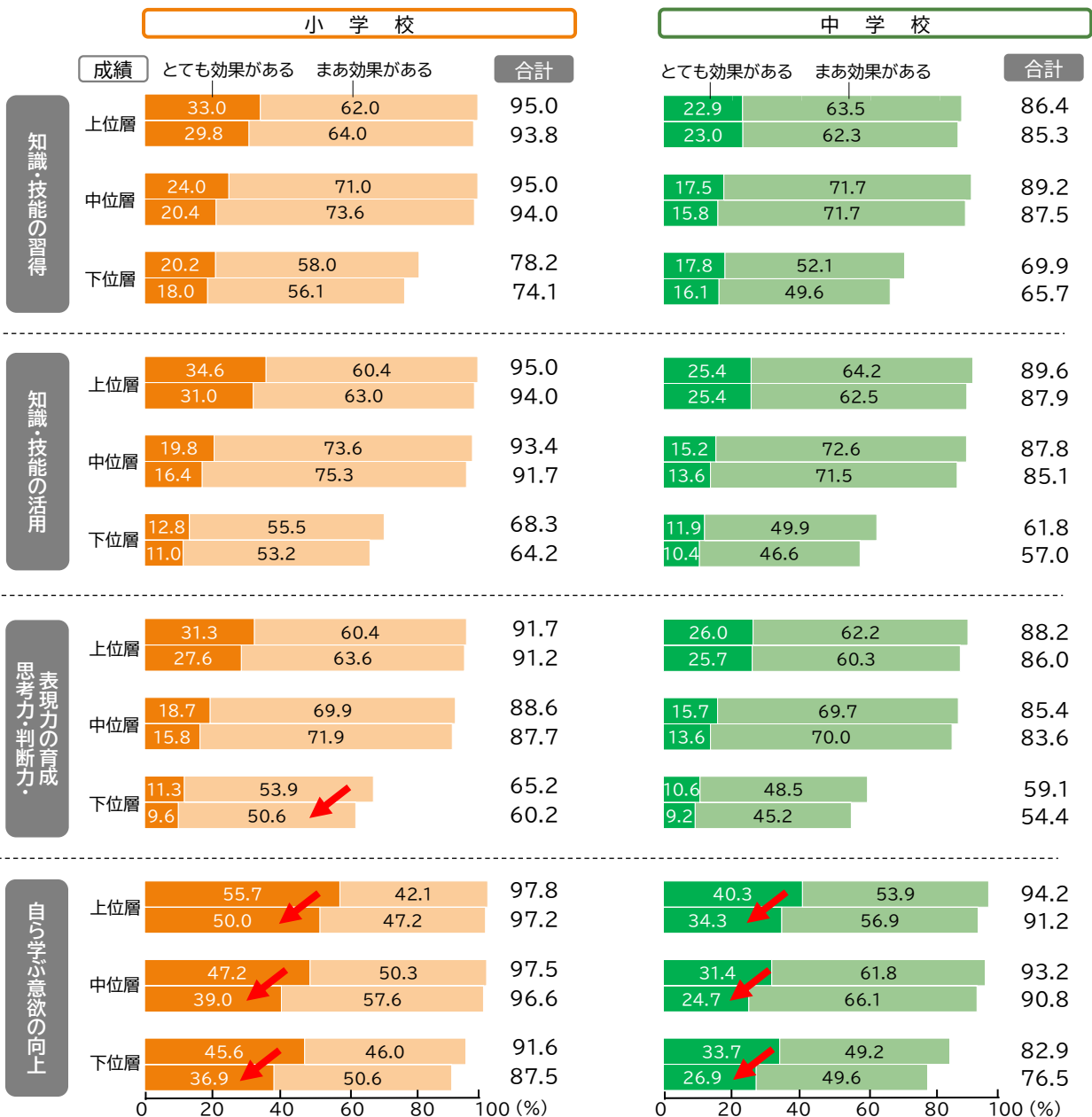
ICT機器を活用した学習の効果は、成績下位層より上位層で高い

ICT機器の活用を成績層別に尋ねたところ、上位・中位層については、「知識・技能の習得」「活用」などの4項目すべてで「効果がある（とても+まあ）」の比率が8～9割台と高いのに対して、下位層は、小学校で6～8割台、中学校で5～7割台にとどまっている。また、2021年と比べて、小・中学校とも「自ら学ぶ意欲の向上」（「とても効果がある」）の比率がどの成績層でも減少したほか、下位層では他の3項目も減少傾向にある。ICT機器の活用が進むなか、児童・生徒の興味・関心がクールダウンしたり、教員が効果を見極めたりしていると考えられる。

Q ICT機器を活用することは、児童・生徒の学習(知識・技能の習得、活用、思考力・判断力・表現力の育成、自ら学ぶ意欲の向上)にとって、どれくらい効果があると思いますか。  
 ※成績上位・中位・下位の児童・生徒をイメージして回答してもらった。

図3-4 児童・生徒の成績層別にみるICT機器活用の効果の違い(経年比較)

上段:2021年  
下段:2022年



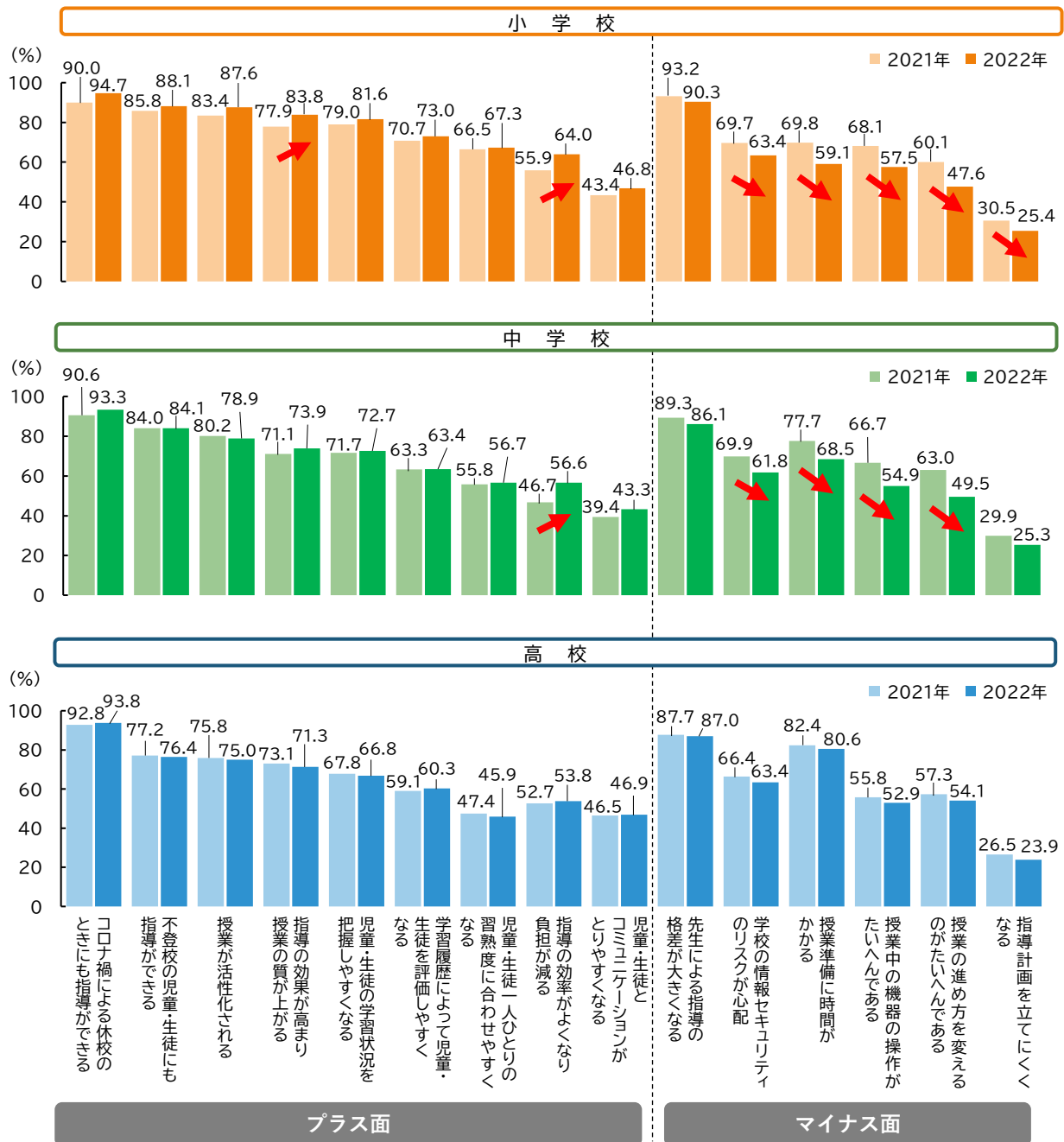
教員にとっての1人1台端末の効果・影響

「授業準備に時間がかかる」など  
1人1台端末による指導の負担感は小・中学校で減少

1人1台端末を活用した指導については、小・中・高校教員とも、「休校のとき」や「不登校の児童・生徒」の指導におけるメリットを感じているほか（7～9割台）、「授業が活性化される」「授業の質が上がる」の比率も高い（7～8割台）。また、小・中学校では2021年と比べて、「指導の効率がよくなり負担が減る」が増加し、「授業準備に時間がかかる」が減少するなど、1人1台端末による指導の負担感が減少している。一方で、「先生による指導の格差が大きくなる」は8～9割台と高いままで、1人1台端末による指導の差があるようだ。

Q 1人1台端末を使った学習は、教員の指導にとってどのような効果や影響があると思いますか。

図3-5 教員にとっての1人1台端末の効果・影響（経年比較）



※高校は「ICT機器を使った学習」について尋ねている。  
 ※小・中学校は、1人1台端末の「導入が完了している（あてはまる）」と回答した教員のみ。の回答。  
 ※「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

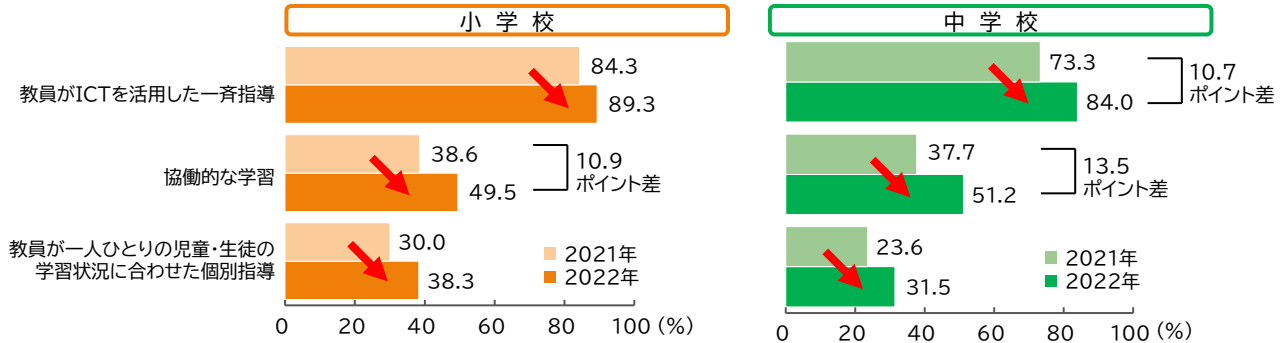
教員が捉えるGIGAスクール構想の実現度

「協働的な学習」や一人ひとりに合わせた「個別指導」の実現度が上昇

GIGAスクール構想の2年目となる2022年は、2021年と比べて、小・中学校ともに、1人1台端末を活用した指導の実現度が高まり（5.0～13.5ポイント増）、「ICTを活用した一斉指導」は8.5～9割弱、「協働的な学習」は約5割、「個別指導」は3～4割弱となった。自由記述をみると、「意欲や主体性の向上」「不登校への対応」「視覚的な理解のしやすさ」「協働的な学び合い」など、指導や学びに関するさまざまな成功事例が生まれていることがわかる。

Q 1人1台端末を活用した学習指導について、あなたは現在どれくらい実現していると思いますか。

図3-6 GIGAスクール構想の実現度(経年比較)



※「かなり実現している」+「まあ実現している」の%。

Q 学校にICT機器が活用されるようになったことによって、あなたの周りにどんな良いこと(問題が解決されたり、効果があらわれた成功事例)があるでしょうか。(自由記述)

主体性の向上  
子どもの意欲や

- あまり勉強が得意でない児童が、テーマを決めて調べ学習をする際に、自分の興味があることを、自分のペースで取り組めたので、意欲的に学習に向かうことができた。(小学校、6年生担任)
- 家庭学習が充実した。解いた問題の数がわかるので、子ども達が競い合っている姿があった。(小学校、3年生担任)
- 気になったことを家で調べたいと言ってタブレット端末を持ち帰る場面が何度か見られた。進んで調べ学習に取り組める環境が整っていると感じる。ICT機器が活用されることで、授業で学んだことを家庭学習でより深く学べる場が確保できていると思う。(小学校、4年生担任)
- 英語のスピーチを、各自が自宅で録画し、送信提出できるようになった。この課題を課すことにより、どのようなスピーキングを追求すればよいのかを各自が考え、見本を見て練習し、取り組めるようになった。(中学校、外国語担当)

不登校への対応  
新型コロナ感染症や

- 休校中にオンラインでの授業を行って学習の遅れを最小限にすることができた。(小学校、1年生担任)
- 不登校やコロナによる自宅待機期間でも、学校と繋がることができ、授業を受けることができたことはもちろんのこと、普段の教室の様子を見ることができるようになった。(中学校、数学担当)
- 不登校傾向の生徒が別室で授業内容を確認しながら、学習を進められるようになった。(中学校、社会担当)

視覚的な理解  
のしやすさ

- 授業において、実物で見られないものを動画で具体的にイメージできる。(小学校、6年生担任)
- 授業での情報の共有、図形などの操作、グラフなどの詳細な視覚化などで効果が表れた。(中学校、数学担当)
- 英語のデジタル教科書を使うことで、聴覚的、視覚的な情報を与える指導がしやすくなった。(中学校、外国語担当)

協働的な学び合い  
のしやすさ

- 回答を共有をする事で、互いの考えや意見を知ることができ、協働的な学びに繋がっている。(小学校、2年生担任)
- 挙手や発言をしないがよく考えている子の意見を可視化でき、授業の流れに取り入れられるようになった。(小学校、担当学年その他)
- 遠隔地との交流など、特に総合的な学習の中で、今までは不可能であった経験をできるようになった。(中学校、国語担当)

校務準備などの  
効率化

- デジタルで情報共有する形が増えると、配布物の削減、配布時間の削減につながり、効率が上がった。(中学校、理科担当)
- 文書の作成や共有ができるようになり、印刷をしたり、会議文書を帳合したりする手間が省けた。成績処理や通知表作成などが手書きよりも楽にできる。(小学校、1年生担任)